



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<https://sanchurch.jp/wp/>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
第64号 2021年6月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行：三軒茶屋教会 広報部

コロナ禍によって各地の教会の歩みは、大きな危機にさらされている。その最たる危機とは主日礼拝がこれまで通りに守れなくなったところにある。

ある教会は緊急事態宣言発出を受け、直ちに会堂を全面閉鎖した。ある教会は礼拝の公開を中止して牧師と数名の役員のみによる礼拝に切り替え、週報と説教を郵送した。ある教会は礼拝を動画によって配信し、教会員は自宅で視聴する形にした。どの教会も置かれた条件と環境のもとで最大限の努力をしたはずである。しかし、そのどれもが前代未聞の取り組みであり、その全てがうまく機能したとは限らない。

会堂を閉鎖した教会では献金がほぼ止まり、財政上の深刻な危機に直面している。「礼拝が行われていないのに、なぜ献金しなければならぬのか」という声もあつたらしい。動画配信される礼拝は、最初は新鮮味があつたが、次第に違和感の方が強くなり、相集つてこそ礼拝であると感じかされたとの声も聞く。また、礼拝の持ち方をめぐって教師と信徒との間の信頼関係が崩れ、教師が辞任に追い込まれている教会もある。確かに、コロナ禍という想定外の

緊急事態、異常事態が発生している故である。

しかしながら、旧約聖書から続く神の民の歩み、後に続く教会の歴史を振り返ると、教会は常にある種の危機にさらされ続けてきた。

外部からの迫害だけでなく、聖書解釈や信仰理解、教会のあり方、その時代の政治との関わり、都市化など社会構造の変化、人々の価値観の変遷、それらをめぐって地上の教会は常に危機にさらされてきた。外的な要因だけでなく、教会内部で起こ

地上の教会

—危機と常に隣り合わせ—

牧師 伊藤英志

る混乱や分裂等によって引き起こされる危機も常に帯びてきた。

コロナ教会は大地震によって町が全滅し、教会の歩みが断たれたと推定されている。ヨハネの黙示録から解るように、歴史の表舞台から完全に消え去った教会も多くある。日本基督教団に属する諸教会の中でも活動停止や合併という決断を下さざるを得ない状況が生じている。20年後に直面すると予測されていた教会の状況が、コロナ禍によってこの一

年で目の前に来た。

これは危機である。このままでは諸教会は危うい。と同時に、未体験の恵みを体験させていただけの機会が到来している。その意味で今の諸教会は「危機」の狭間にいるのだ。

当教会は会堂の換気ができていたため、幸いにも主日礼拝を一度も休まずに継続してきた。この間、多くの新来会者を礼拝に迎えた。会堂を閉鎖した教会の信徒の出席もあつた。この事態であるからこそ慰めと癒し、清めと励ましを切に求めている人々がいると改めて示された。



今、到来している機会、チャンスとは、主日礼拝を守り続ける意味と価値を改めて確認し合うところにある。

そこで示される道から外れることなく、天にある御心を尋ね求め続ける時、人間業では実現不可能な次の恵みの御業が現れ出る。

今はまだ誰にも解らないその恵みは、このコロナ禍が過ぎ去つてから味わうであろう。その時の到来を辛抱強く、忍耐をもって、待ち望める私たちがでありたい。大きな喜びと感謝に満ちた恵みを共に分かち合えるその日を共に生きて迎えられるよう祈りを合わせたい。